

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 平成26年8月13日

【四半期会計期間】 第65期第1四半期(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

【会社名】 中国工業株式会社

【英訳名】 CHUGOKUKOGYO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 野村 實也

【本店の所在の場所】 広島市中区小町2番26号
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っておりま
す。)

【電話番号】

【事務連絡者氏名】

【最寄りの連絡場所】 広島県呉市広名田一丁目3番1号

【電話番号】 0823-72-1322

【事務連絡者氏名】 経営管理部長 小田 和守

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第64期 第1四半期 連結累計期間	第65期 第1四半期 連結累計期間	第64期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	2,315,093	2,481,936	11,793,759
経常利益又は経常損失() (千円)	98,945	58,128	91,174
四半期純損失()又は当期純利益 (千円)	115,745	73,415	61,213
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	113,401	50,733	123,915
純資産額 (千円)	3,244,102	3,582,240	3,481,141
総資産額 (千円)	8,772,954	9,378,256	9,841,347
1株当たり四半期純損失金額 ()又は1株当たり当期純利益 金額 (円)	34.16	21.67	951.67
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	34.16	35.39	32.76

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式がないため記載しておりません。潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。
4. 平成25年10月1日付で10株につき1株の割合で株式併合を行いました。第64期連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び当社の関係会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費増税に伴う駆け込み需要の反動で足元がやや落ち込んだものの、緊急経済対策の効果により円安、株高傾向が続き、緩やかな回復基調にあります。しかしながら、中国をはじめとした新興国経済の減速や円安による原材料及びエネルギーコストの上昇等、景気の先行きには引続き不透明な状況が続いております。

一方、当社グループを取り巻く事業分野も再生可能エネルギーなどエネルギー供給源の多様化等事業環境に変化が続き、また国内設備投資が昨年に引き続き低調に推移しました。

このような経済情勢のなか、当社グループは設備投資抑制などの影響により鉄構輸送機事業が減収となりましたものの、LPガス容器の需要が増大したことにより、高圧機器事業が増収となりました。この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は24億81百万円(前年同期比1億66百万円の増収)となり、営業損失は63百万円(前年同期比35百万円の赤字縮小)、経常損失は58百万円(前年同期比40百万円の赤字縮小)、四半期純損失は73百万円(前年同期比42百万円の赤字縮小)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

高圧機器事業

LPガス容器及び一般高圧ガス容器の販売数量が増加したことにより、事業全体の売上高は13億75百万円となり、前年同期を1億93百万円(16.4%)上回りました。また、セグメント利益(営業利益)は、売上高の増加により前年同期を44百万円上回る56百万円となりました。

鉄構輸送機事業

鉄鋼メーカー向け焼鈍炉用インナーカバー及びコンベヤ設備を主体とした搬送機器の受注が減少した結果、事業全体の売上高は1億54百万円となり、前年同期を37百万円(19.7%)下回りました。しかしながら、セグメント損益(営業損益)は、総コストの削減に努めました結果、前年同期のわずかな赤字から8百万円の黒字となりました。

施設機器事業

畜産分野の主力製品である飼料タンクの販売数量が増加したことにより、事業全体の売上高は2億41百万円となり、前年同期を8百万円(3.8%)上回りました。また、セグメント損失(営業損失)は売上高の増加により、17百万円と前年同期と比べ2百万円の赤字縮小となりました。

運送事業

国内貨物輸送量が低水準で推移するなかで、顧客ニーズに積極的に対応したことにより、事業全体の売上高は7億10百万円となり、前年同期を1百万円(0.3%)上回りました。また、セグメント利益(営業利益)は、燃料価格の上昇などにより、前年同期を2百万円(18.3%)下回る9百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して4億63百万円(4.7%)減少し、93億78百万円となりました。

資産は、投資有価証券が時価の上昇により1億88百万円増加しましたが、受取手形及び売掛金が7億9百万円減少しました。

負債は、賞与支給予定額を主体に未払費用が1億48百万円及び前受金が1億55百万円それぞれ増加しましたが、支払手形及び買掛金が2億44百万円、借入金金が3億66百万円及び退職給付に係る負債が1億55百万円それぞれ減少した結果、負債合計は5億64百万円(8.9%)減少し、57億96百万円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金が1億15百万円増加した結果、純資産合計は1億1百万円(2.9%)増加し、35億82百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は11百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,420,000	3,420,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	3,420,000	3,420,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年6月30日		3,420,000		1,710,000		329,299

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,900		
	(相互保有株式) 普通株式 59,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,345,600	33,456	
単元未満株式	普通株式 11,500		1単元未満の株式
発行済株式総数	3,420,000		
総株主の議決権		33,456	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が100株(議決権1個)含まれています。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、中鋼運輸株式会社所有の相互保有株式84株及び当社所有の自己株式37株が含まれています。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 中国工業株式会社	広島市中区小町2-26	3,900		3,900	0.11
(相互保有株式) 中鋼運輸株式会社	広島県呉市広町田2-7-41	59,000		59,000	1.72
計		62,900		62,900	1.84

- (注) 株主名簿上は中鋼運輸株式会社の名義となっているが、実質的に同社が所有していない株式が1,100株あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含めています。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	906,258	839,582
受取手形及び売掛金	3,374,931	2,665,644
電子記録債権	90,438	91,293
製品	142,717	168,491
仕掛品	535,453	600,850
原材料及び貯蔵品	220,519	251,781
その他	106,424	105,075
貸倒引当金	1,534	1,248
流動資産合計	5,375,208	4,721,471
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	547,403	540,742
機械装置及び運搬具（純額）	333,926	321,016
土地	2,207,049	2,207,049
リース資産（純額）	91,822	84,323
建設仮勘定	20,864	46,971
その他（純額）	14,513	20,459
有形固定資産合計	3,215,579	3,220,562
無形固定資産	37,843	37,405
投資その他の資産		
投資有価証券	1,091,830	1,280,164
建設協力金	19,860	18,390
その他	156,644	155,803
貸倒引当金	55,618	55,540
投資その他の資産合計	1,212,717	1,398,817
固定資産合計	4,466,139	4,656,785
資産合計	9,841,347	9,378,256

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,541,121	1,296,775
電子記録債務	462,039	436,399
短期借入金	1,902,829	1,525,646
リース債務	32,860	28,591
未払金	156,995	93,697
未払費用	85,507	233,698
未払法人税等	35,750	16,443
未払消費税等	41,953	29,683
前受金	112,285	267,874
賞与引当金	80,811	44,039
役員賞与引当金	12,000	3,000
その他	32,640	43,533
流動負債合計	4,496,794	4,019,382
固定負債		
長期借入金	376,434	387,412
リース債務	117,855	112,312
役員退職慰労引当金	75,684	75,684
退職給付に係る負債	1,116,813	960,948
その他	176,623	240,275
固定負債合計	1,863,411	1,776,633
負債合計	6,360,206	5,796,015
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,710,000	1,710,000
資本剰余金	329,347	329,347
利益剰余金	1,035,307	1,014,889
自己株式	80,755	80,770
株主資本合計	2,993,899	2,973,466
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	230,236	345,644
その他の包括利益累計額合計	230,236	345,644
少数株主持分	257,006	263,129
純資産合計	3,481,141	3,582,240
負債純資産合計	9,841,347	9,378,256

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	2,315,093	2,481,936
売上原価	1,923,979	2,008,232
売上総利益	391,113	473,704
販売費及び一般管理費	490,183	537,363
営業損失()	99,070	63,659
営業外収益		
受取利息	237	180
受取配当金	3,905	2,756
助成金収入	496	5,616
その他	5,412	5,312
営業外収益合計	10,051	13,865
営業外費用		
支払利息	6,322	5,279
出向者人件費	1,604	933
その他	2,000	2,121
営業外費用合計	9,927	8,335
経常損失()	98,945	58,128
特別利益		
固定資産売却益	-	709
特別利益合計	-	709
特別損失		
固定資産除売却損	175	243
ゴルフ会員権評価損	3,700	200
特別損失合計	3,875	443
税金等調整前四半期純損失()	102,821	57,862
法人税、住民税及び事業税	14,166	16,352
法人税等調整額	3,507	3,991
法人税等合計	10,658	12,360
少数株主損益調整前四半期純損失()	113,480	70,223
少数株主利益	2,264	3,191
四半期純損失()	115,745	73,415

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	113,480	70,223
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	79	120,956
その他の包括利益合計	79	120,956
四半期包括利益	113,401	50,733
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	113,476	41,993
少数株主に係る四半期包括利益	75	8,740

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づき割引率を決定する方法から退職給付支払ごとの支払見込期間を反映する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が76,495千円減少し、利益剰余金が同額増加しております。なお、当第1四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
受取手形割引高	36,383千円	28,079千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
減価償却費	47,656千円	43,927千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月26日 取締役会	普通株式	23,715	7.00	平成26年3月31日	平成26年6月11日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2
	高压機器 事業	鉄構輸送機 事業	施設機器 事業	運送事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,181,369	192,098	232,694	708,931	2,315,093		2,315,093
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,611			102,228	111,840	111,840	
計	1,190,981	192,098	232,694	811,159	2,426,933	111,840	2,315,093
セグメント利益又は損失()	12,297	150	19,511	11,471	4,107	103,177	99,070

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額 103,177千円には、セグメント間取引消去139千円、各報告セグメントに
配分していない全社費用 103,316千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない、経
営管理部、総務部等管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2
	高压機器 事業	鉄構輸送機 事業	施設機器 事業	運送事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,375,369	154,223	241,544	710,799	2,481,936		2,481,936
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,187			117,933	119,120	119,120	
計	1,376,556	154,223	241,544	828,732	2,601,056	119,120	2,481,936
セグメント利益又は損失()	56,320	8,998	17,067	9,370	57,621	121,281	63,659

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額 121,281千円には、セグメント間取引消去226千円、各報告セグメントに
配分していない全社費用 121,507千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない、経
営管理部、総務部等管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	34円16銭	21円67銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	115,745	73,415
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	115,745	73,415
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,388	3,387

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 平成25年10月1日付で10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

2 【その他】

平成26年5月26日開催の取締役会において、平成26年3月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 23,912千円

1株当たりの金額 7円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成26年6月11日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年8月8日

中国工業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	柴田良智印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	宮本芳樹印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている中国工業株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、中国工業株式会社及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。